

(1993年11月26日設立)

英語語法文法学会 THE SOCIETY OF ENGLISH GRAMMAR AND USAGE

事務局便り

No. 29

2014年4月5日

会長 内田聖二

事務局 〒520-2194 滋賀県大津市瀬田大江町横谷1-5 龍谷大学社会学部 五十嵐海理研究室内
tel. 077-543-7436 (研究室) / fax. 077-543-7615 (社会学部) email:segu.office@gmail.com
郵便振替口座 02260-0-70393 英語語法文法学会

ホームページ: <http://segu.sakura.ne.jp>

◆20周年記念『英語語法文法研究』第20号刊行

『英語語法文法研究』第20号(2013年12月刊行)において、学会創設20周年を記念して、第20回大会でご講演を賜りました中右実先生(筑波大学名誉教授)、大沼雅彦先生(大阪市立大学名誉教授)よりご寄稿いただきました。また、歴代会長の故児玉徳美先生(立命館大学名誉教授)、八木克正先生(関西外国語大学 関西学院大学名誉教授)、安井泉先生(聖徳大学 筑波大学名誉教授)に記念論文のご寄稿をいただきました。ここに厚くお礼申し上げます。

◆第14回「英語語法文法学会賞」授賞報告

初代会長故小西友七先生の寄付金を基金とした「第14回英語語法文法学会賞」(2012年4月1日～2013年3月31日までに出版された単行本が対象)は、河野継代氏(東京学芸大学)著『英語の関係節』(2012年10月 開拓社)に授与されることが、2013年度総会(10月19日 於 九州大学大学院言語文化研究院)にて内田聖二会長より報告され、表彰が行われました。

◆訃報

本学会名誉顧問の児玉徳美先生(立命館大学名誉教授)が本年3月11日、逝去されました。児玉先生は、英語語法文法学会の設立に際し、発起人のなかでも陣頭に立って尽力されました。また、第3代会長を2000年から2004年まで4年にわたって務められ、本学会の発展に貢献されました。語法、文法の分野のみならず、広く我が国の英語学、言語学全般に大きな功績を残されました。ここに児玉先生の生前の学恩

に深謝し、謹んでお知らせいたします。

◆会長の再任

2013年8月5日に開催された運営委員会で、会長選出内規により、内田聖二会長の2期目の就任が決定され、2013年10月19日の総会で報告されました。

◆事務局の移動のお知らせ

今年度4月より事務局長に五十嵐海理氏(龍谷大学)、会計・名簿管理担当に住吉 誠氏(摂南大学)が就任しました。それに伴い、事務局は龍谷大学社会学部(五十嵐海理研究室)に移りました。

◆運営委員会内に各種委員会を設置

今年度より運営委員会に、学会賞委員会、大会委員会、セミナー委員会を設け、業務分担することになりました。これにより、従来事務局が行っていた業務の一部は委員会で行われることになりました。(構成員などの詳細は3頁に掲載しています。)

◆第22回大会開催案内

英語語法文法学会第22回大会を下記の要領で開催します。

日時: 2014(平成26)年10月25日(土)

会場: 摂南大学(寝屋川キャンパス)

〒572-8508 大阪府寝屋川市池田中町17-8

<http://www.setsunan.ac.jp/>

順路: 京阪「寝屋川市駅」より、西口3番乗り場から京阪バス[3][5][10][11][12]系統で約15分

- 大阪駅からは
JR 大阪環状線（外回り）で、京橋へ約 5 分、
京阪本線（準急または急行）で京橋駅から寝
屋川市駅まで約 15 分。
- 京都駅からは
近鉄京都線で丹波橋駅へ約10分、京阪本線（特
急）で枚方駅へ約20分、（準急または普通）で寝
屋川市駅へ約10分

今回のシンポジウムは、『文化化と構文をめぐって』をテーマとして準備中です。司会、講師と各講師のテーマは以下のとおりです。ご期待ください。

- 司会 松村瑞子（九州大学）
講師 川端朋広（愛知大学）
「文化化研究の展開
—談話標識をめぐって—」
講師 米倉よう子（奈良教育大学）
「文化化と構文的变化」
講師 前田 満（愛知学院大学）
「構文化の射程と文化化」
[敬称略]

◆第10回英語語法文法セミナー

標記セミナーを下記の要領で開催いたします。

- 日時：2014（平成26）年8月4日（月）
13時30分～17時30分
会場：関西学院大学大阪梅田キャンパス
〒530-0013 大阪市北区茶屋町19-19
アプローチタワー10階1004室
参加費：2,000円（資料代を含む）

今回のテーマは、『使える英文法：語彙・構文研究を現場にいかす』です。司会と講師、各講師のテーマは以下のとおりです。

- 司会(兼 講師) 大室剛志（名古屋大学）
「使役を表す動詞の意味の中身を探る」
講師 金澤俊吾（高知県立大学）
「名詞句にみられる修飾関係とその規則性について」
講師 滝沢直宏（立命館大学）
「文法と表現の接点：中学必須単語を有効に使う」
講師 都築雅子（中京大学）
「語彙化のパターンにおける英語と日本語の
ずれ：衛星枠付け言語と動詞枠付け言語」
[敬称略]

必要な方にはセミナー受講証も発行いたします。

奮ってご参加ください。参加ご希望の方は、平成26年7月28日(月)までに件名を「セミナー参加希望」として segu.seminar@gmail.com までお申し込みください。

◆第15回「英語語法文法学会賞」について

英語の語法・文法に関する優れた単行本を出版した学会会員に贈られる第15回学会賞対象図書は2013年4月1日～2014年3月31日までに出版された単行本です。自薦、他薦を問いませんので、同封の推薦用紙に推薦図書、推薦理由を記入の上、fax あるいは郵便で2014年5月10日までに事務局宛にお送りいただくか、推薦の内容をemailで事務局までお知らせください（〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷1-5 龍谷大学社会学部 五十嵐海理研究室内 fax: 077-543-7615 email: segu.office@gmail.com）。

英語語法文法学会賞の授賞に関する規定

(授賞)

- 第2条 学会賞は、前年度4月1日から翌年3月末日までに、英語の語法・文法に関する優れた単行本を出版した学会会員に対して、学会が設置する「英語語法文法学会賞委員会」（以下「委員会」という）の選考により、運営委員会の議を経て授賞する。
- 2 授賞は、原則として年度ごとに1件とする。
 - 3 授賞式は年次大会において行う。
 - 4 受賞者に対しては、賞とともに賞金10万円を贈呈する。（関係部分一部抜粋）

◆第4回「英語語法文法学会奨励賞」選考結果

若手会員による英語の語法・文法に関する優れた論文に対して贈られる第4回「英語語法文法学会奨励賞」は、今回は「該当者なし」という結果になったことが2013年度総会において内田聖二会長より報告されました。

なお、第5回「英語語法文法学会奨励賞」は、本年7月10日締め切りの『英語語法文法研究』への応募論文がその対象となります。

英語語法文法学会奨励賞授賞規定

(授賞の対象)

- 第2条 奨励賞は、毎年7月10日を締切日とする。
- 『英語語法文法研究』への応募論文（研究論文に限る。シンポジウム論文、語法ノート、書評は除く）を対象として、英語語法文法学会の趣旨に照らし、実証性・独創性・発展性に

富む、優れた研究に対して授賞する。応募者は上記の締め切り日の時点で、39歳以下、または大学院修士課程あるいは博士前期課程修了10年以内の学会会員に限る。

(選考方法)

第3条 編集委員会が選考にあたり、運営委員会の議を経て決定する。奨励賞の授賞は、原則として年度ごとに1篇以内とする。

(選考結果の発表および授賞式)

第4条 翌年度の大会の総会にて行う。受賞者に対しては、賞とともに記念品を贈呈する。

(関係部分一部抜粋)

◆運営委員の交替

本年3月8日開催の運営委員会において、運営委員として以下の方々の就任が承認されました(任期は2014年4月1日より2016年3月末日まで)。

牛江一裕 (埼玉大学)
大橋 浩 (九州大学)
滝沢直宏 (立命館大学)
西田光一 (下関市立大学)
吉田幸治 (近畿大学)

[50音順。敬称略]

また、本年3月末日をもって、以下の方々が運営委員を退任されました。学会運営に対するご尽力に心より感謝申し上げます。

大竹芳夫 (新潟大学)
須賀あゆみ (奈良女子大学)
菅山謙正 (龍谷大学)
中澤和夫 (青山学院大学)
中山 仁 (福島県立医科大学)

[50音順。敬称略]

◆編集委員長の交替

菅山謙正先生(龍谷大学)が本年度末をもって編集委員を退任されました。永年のご尽力に心より感謝申し上げます。後任として、中澤和夫先生(青山学院大学)が編集委員長に就任されることが本年3月8日開催の運営委員会において承認されました。

◆運営委員会委員

今年度4月より運営委員会内に学会賞委員会、大会委員会、セミナー委員会を設置することが本年3月8日開催の運営委員会において承認されました。各委員会の委員長、副委員長、構成員は、下記のとおりです(◎は委員長、○は副委員長(次

期委員長))。

学会賞委員会

◎内田聖二、澤田治美、関茂樹、八木克正、安井泉

大会実行委員会

◎吉良文孝、○松村瑞子、大橋 浩、西田光一、林龍次郎、吉田幸治

セミナー委員会

◎大室剛志、○神崎高明、牛江一裕、滝沢直宏

[敬称略]

◆第22回大会研究発表者募集

第22回大会での「研究発表」の発表者を募集します。会員の方は、下記の研究発表応募規定にしたがい、事務局宛に奮ってご応募下さい。

なお、応募規定は本年3月8日開催の運営委員会の決定により、改正しました。

<研究発表応募規定>

- 発表者は英語語法文法学会の会員でなければならない。
- 発表時間は25分以内(別に質疑応答が10分)とする。
- 応募者は、下記①-④の応募書類を作成し、英語語法文法学会事務局に締め切り日までに提出すること。
 - 発表要旨(MS Word ファイル あるいは PDF ファイル) : A4判 32字×25行(文字の大きさは12ポイント)で、本文と注を含めて4枚以内とする。ただし、参考文献表は枚数に含めない。冒頭には発表題名のみを記し、名前・所属は記入しないこと。
 - 応募者情報(MS Word ファイル あるいは PDF ファイル) : 発表題目、氏名(ふりがな)、所属・職名(学生会員の場合は学年も記入)、郵便番号、住所、電話番号、fax番号、email addressを明記したもの。①とは別のファイルを作成すること。
 - 発表要旨(書類) : ①と同じ内容を印刷したものを1部。
 - 応募者情報(書類) : ②と同じ内容を印刷したものを1部。③とは別紙に印刷すること。
- 上記①②はemailに添付し、英語語法文法学会事務局宛(segu.office@gmail.com)に送信する。件名は「研究発表応募」とする。上記③④は封筒の表に「研究発表応募」と朱書した上で、英語語法文法学会事務局宛

(〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷 1-5 龍谷大学社会学部 五十嵐海理研究室)に送付する。

5. 応募締め切りは**7月25日(金)(必着)**とする。
6. 選考結果は8月中旬までに通知する。
7. 採用者は発表要旨(500字以内)を8月21日(木)までに、予稿集の原稿を9月24日(水)までに提出すること。これらの書式と締め切りは採用通知送付の際に改めて通知する。

(2014年3月8日改定)

[事務局からのお願い]

応募者の方々には、発表要旨のファイル送信に先立って、ファイル情報等に作成者名を残さないよう、ファイルの「プロパティ」等をご確認ください。よろしくお願いいたします。

◆第22回大会語法ワークショップ発表者募集

第22回大会の「語法ワークショップ」の発表者を募ります。語や構文などを取り上げ、言語資料に基づきその語・構文の統語上、意味上、あるいは語用論上の特性を明らかにすることを目的とします。語法ノートのものでも結構ですから、会員の方は下記の語法ワークショップ応募規定にしたがい、事務局宛に奮ってご応募ください。なお、応募規定は本年3月8日開催の運営委員会の決定により、改正されました。

<語法ワークショップ応募規定>

1. 発表者は英語語法文法学会の会員でなければならない。
2. 発表時間は12分以内(別に質疑応答が5分)とする。
3. 応募者は、下記①-④の応募書類を作成し、英語語法文法学会事務局に締め切り日までに提出すること。
 - ① 発表要旨 (MS Word ファイル あるいは PDF ファイル) : A4判 32字×25行(文字の大きさは12ポイント)で、本文と注を含めて4枚以内とする。ただし、参考文献表は枚数に含めない。冒頭には発表題名のみを記し、名前・所属は記入しないこと。
 - ② 応募者情報 (MS Word ファイル あるいは PDF ファイル) : 発表題目、氏名(ふりがな)、所属・職名(学生会員の場合は学年も記入)、郵便番号、住所、電話番号、fax番号、email addressを明記したもの。①とは別のファイルを作成すること。

③ 発表要旨(書類) : ①と同じ内容を印刷したものを1部。

④ 応募者情報(書類) : ②と同じ内容を印刷したものを1部。③とは別紙に印刷すること。

4. 上記①②はemailに添付し、英語語法文法学会事務局宛(segu.office@gmail.com)に送信する。件名は「語法ワークショップ応募」とする。上記③④は封筒の表に「語法ワークショップ応募」と朱書した上で、英語語法文法学会事務局宛(〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷 1-5 龍谷大学社会学部 五十嵐海理研究室)に送付する。
5. 応募書類の提出期限は**7月25日(金)(必着)**とする。
6. 選考結果は8月中旬までに通知する。
7. 採用者は発表要旨(500字以内)を8月21日(木)までに、予稿集の原稿を9月24日(水)までに提出すること。これらの書式と締め切りは採用通知送付の際に改めて通知する。

(2014年3月8日 改定)

[事務局からのお願い]

応募者の方々には、発表要旨のファイル送信に先立って、ファイル情報等に作成者名を残さないよう、ファイルの「プロパティ」等をご確認ください。よろしくお願いいたします。

【応募上の注意】

研究発表と語法ワークショップの両方に同時に応募することはできません。

◆『英語語法文法研究』投稿募集

『英語語法文法研究』(第21号)への投稿を受け付けています。論文・語法ノートへの投稿は現代英語の語法および文法研究に資する内容のもので未発表論文に限ります。原稿ができた時点で早目に投稿していただければと思います。

なお、最近インターネット上の用例を使用されている投稿論文が多いようです。インターネット上の用例を使用する場合は、インフォーマントチェックを必ず受けておいてくださるようお願いいたします。

<『英語語法文法研究』(第21号)の論文・語法ノートへの投稿規定>

1. 投稿は会員に限る。
2. 投稿論文は現代英語の語法および文法研究

に資する内容のものであり、未発表の論文であること。

3. 投稿締め切りは**7月10日(木)(必着)**、採否決定を8月中旬、刊行を12月とする。
4. 論文の場合、長さは 34 文字× 31 行、16 枚以内とする。語法ノートの場合、長さは 34 文字× 31 行、6 枚以内のものとする。
5. 論文・語法ノートは、A4 用紙にプリントアウトしたものを 1 部提出すること。また、氏名、所属、連絡先の住所、電話番号、fax 番号、email address、年齢（奨励賞との関係で）は、論文とは別紙で付けること。
6. 前項5と同じもののfile (MS WordあるいはPDF) をemailに添付して、編集委員長 (sequ.paper@gmail.com) 宛に送ること。
なお、件名を「投稿」とすること。
7. 入力に関しては、既刊号の論文を参考にし、特に以下の点に留意すること。
 - a. 例文の前後に 1 行ずつ空白行を設けること。
 - b. 各節には見出しをつけ、節の前に 1 行ずつ空白行を設けること。
 - c. 外字、機種特有の文字・記号は使用しないこと。
 - d. 和文中の英語の語句の前後に半角のスペースを入れる。
 - e. 2 桁以上の数字は半角を用いる。
 - f. 小説・論文の出典は下のように表記する。
(S. Sheldon, *The Windmill*), (Declerck 1979: 123)
8. 注は脚注とする。
9. 参考文献の書式は以下の例にならうこと。
Chomsky, N. 1986a. *Barriers*. Cambridge, Mass: MIT Press.
Chomsky, N. 1986b. *Knowledge of Language: Its Nature, Origin, and Use*. New York: Praeger.
Hopper, P. J. 1979. "Aspect and Foregrounding in Discourse." In T. Givón ed., *Syntax and Semantics* 12, 213-241. New York: Academic Press.
柏野健次. 1993. 「easy タイプの形容詞の 3 つの意味」衣笠忠司・赤野一郎・内田聖二（編）『英語基礎語彙の文法』145-154. 東京：英宝社。
川本一郎. 1975. 「前置詞について」『英語青年』第 120 巻第5号, 23-26.
Lasnik, H. and M. Saito. 1984. "On the Nature of Proper Government." *Linguistic Inquiry* 15, 235-289.
島村礼子. 1990. 『英語の語形成とその生産性』

東京：リーベル出版。

- van der Leek, F. 1996. "The English Conative Construction: A Compositional Account." *CLS* 32, 363-373.
10. 原稿の採否は編集委員会の審査により決定する。
 11. 著者校正は 1 回とし、変更は字句の修正のみとする。
 12. 原稿料は支払わない。
 13. 送付先: 〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25 青山学院大学文学部英米文学科
中澤和夫（「投稿論文在中」と朱記のこと）まで。

(2013 年 8 月 6 日改定)

『英語語法文法研究』第20号に記載されている送付先は上記に変更になりました。ご注意ください。

【応募上の注意】

研究発表との二重応募、他学会の機関誌との二重投稿はお控えください。

◆英語語法文法学会第21回大会

英語語法文法学会第 21 回大会は 2013 年 10 月 19 日（土）に九州大学大学院言語文化研究院（伊都キャンパス）にて開催され、語法ワークショップ、研究発表、シンポジウムが行われました。多数の参加者があり、活発な議論、討論が行われました。開催校委員の松村瑞子先生、協力教員としてお骨折りいただきました江口巧先生、大津隆広先生、お手伝いいただいた九州大学大学院の学生の方々にお礼を申し上げます。

語法ワークショップ 10.30—11.55

（センター1 号館 1303）

司会 中山 仁（福島県立医科大学）

1. 「連鎖動詞 *come to* と *get to* に後続する動詞とアスペクト」 藏菌和也（関西学院大学大学院）
2. 「Way 構文に伴う「困難性」—*manage to* テストの提案—」 中村英江（神戸女子大学大学院）
3. 「接触・衝突の *against* と *into* について」
西前 明（明治学院大学非常勤）
4. 「客観的所属と主観的所属 —*belong to* と *belong in* の場合—」
金子輝美（愛知淑徳大学非常勤）
5. 「学習英文法における場所句倒置構文について」
大川裕也（札幌大学）

研究発表 13.00-14.45

第1室 (センター1号館 1302)

司会 松尾文子 (梅光学院大学)

1. 「The 比較級, the better.」の意味と語用論的機能 小林 翠 (大阪大学大学院)
2. 「認識的法助動詞の疑問化」 小澤賢司 (日本大学大学院)
3. 「カテゴリの視点から「クジラの公式」を読み解く」 明日誠一 (青山学院大学非常勤)

第2室 (センター1号館 1303)

司会 伊藤 晃 (北九州市立大学)

1. 「「遠ざかる」義に関わる前置詞 down の語法—副詞 down との差異に注目して—」 濱上桂菜 (大阪大学大学院)
2. 「恐怖を表す感情語と構文との共起性—使役移動構文と二重目的語構文の用法を中心に—」 中尾朋子 (大阪大学大学院)
3. 「穴あけ構文と「結果目的語」」 五十嵐海理 (龍谷大学)
吉川裕介 (佛教大学非常勤)

シンポジウム 15.35-17.45

(センター2号館 2306) 15.35-17.45)

テーマ 「名詞句とその修飾をめぐって」

司会 中澤和夫 (青山学院大学)

1. 「名詞の限定修飾について」 中澤和夫 (青山学院大学)
2. 「最上級名詞句とその修飾をめぐって」 河野継代 (東京学芸大学)
3. 「名詞の前位修飾について」 佐々木一隆 (宇都宮大学)

懇親会 18.00-19.30

天天 (TEN TEN) (稲盛財団記念館 1階)

◆新入会員紹介

五十嵐啓太 (筑波大学大学院)
 内田 諭 (東京外国語大学)
 大川裕也 (札幌大学)
 川嶋正士 (日本大学)
 熊澤清美 (学習院大学大学院)
 藏菌和也 (関西学院大学大学院)
 倉田 誠 (京都外国語大学)
 小林 翠 (大阪大学大学院)
 西前 明 (明治学院大学非常勤)
 佐藤翔馬 (名古屋大学大学院)
 曾根洋明 (山形大学)
 田中利枝
 塚木沙弥 (広島大学大学院)

中尾朋子 (大阪大学大学院)
 中村英江 (神戸女子大学大学院)
 並木翔太郎 (筑波大学大学院)
 濱 昌央 (元私立高校教員)
 濱上桂菜 (大阪大学大学院)
 野部尊仁 (筑波大学大学院)
 米倉よう子 (奈良教育大学)

[50音順。敬称略]

◆年会費納入のお願い

2013年4月1日から年会費が変更され、「一般会員」は5,000円、「学生会員」は4,000円となりました。つきましては、2014年度(2014年4月~2015年3月)会費を同封の郵便払込取扱票でお支払いください。申し訳ありませんが、払込手数料は各自ご負担ください(郵便振替料金は120円(ATMからは80円)です)。金額欄が10,000円または8,000円になっている方は、昨年度分年会費が未納ですので、併せて納入いただきますようお願いいたします。会費が2年連続して未納の場合は、会員資格が失効いたします。「学生会員」は郵便払込取扱票の通信欄に住所・氏名に加えまして、「在籍大学院名」もご記入ください。なお、大会案内や機関誌等の送付には経費節約のため民間メール便を利用しておりますため、郵便局にお届けの転居先までの追跡送付ができません。発行物送付の遅延にもつながりますので、住所・所属に変更や異動のある方は、新住所・所属を郵便払込取扱票通信欄に明記いただくか、英語語法文法学会ホームページ (<http://segu.sakura.ne.jp/>) の「登録情報の変更」連絡用フォームにて事務局までお知らせくださいようお願い申し上げます。

◆新刊書紹介

事務局にお知らせいただいた会員の刊行物を逐次紹介いたしますので、事務局宛にお知らせください。(出版月順、出版時期が同じ場合は著者の50音順)

高橋勝忠. 2013年5月『英語学基礎講義 英語学ってどんな学問?』(第2版) 東京: 現代図書.
 安井 泉 編著. 2013年7月『ルイス・キャロル ハンドブッカーアリスの不思議な世界』 東京: 七つ森書館.
 安井 泉. 2013年9月『英語で楽しむ英国ファンタジー』 東京: 静山社.
 内田聖二. 2013年10月『ことばを読む心を読む: 認知語用論入門』 東京: 開拓社.

編集後記

例年になく厳しい冬が去り陽光おだやかな春の日に、本学会名誉顧問の児玉徳美先生（立命館大学名誉教授）がご逝去されたという悲しい知らせを受けました。2012年秋の20周年記念大会の懇親会で乾杯のご発声とともに学会の将来のために激励のお言葉をいただいたお姿が偲べれます。昨年末に刊行された『英語語法文法研究』第20号にはご労作をお寄せいただき、先生にはまだまだお元気でご指導いただけるものと思っておりましたのに、大変残念でなりません。第21回大会については、遠方のためお越しいただけないので、とご丁寧なお便りをくださり、学会運営についてご助言をいただきました。今秋摂南大学で行われる大会でお目にかかれますことを楽しみにしていましたが、それもかなわぬ願いとなってしまいました。先生の教えを胸に刻み、今後歩みを進めてまいりたいと思います。児玉先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

第21回大会の総会でもお知らせしましたように、本年4月より内田聖二先生に2期目の会長職をおつとめいただくことになりました。事務局長には五十嵐海理先生、会計・名簿担当委員には住吉誠先生にご就任いただくこととなりました。また、運営委員の任期を最大2期までとする規約の制定後初めて選出された委員の退任に伴い、2014年度より多くの先生方を新たに運営委員としてお迎えすることになりました。昨秋の総会の時には、新体制への移行の準備が進行中でしたので、この時期のご報告となりました。大竹芳夫会計・名簿担当委員と須賀は本年3月をもちまして事務局を退任させていただくことになりましたが、このような形でご挨拶させていただきますことをお詫び申し上げます。

20周年という節目の年に事務局として学会運営に携わらせていただけましたことを大変有難く思っております。また、みなさまのご協力をいただき2013年度より年会費、大会参加費、懇親会費の値上げを実施してまいりましたが、その効果が現れるのは、次回の会計報告以降になります。会員のみなさまにおかれましては、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2年間という短い期間でしたが、大変お世話になりました。行き届かぬ点多々あり、ご迷惑をおかけしたことと思いますが、いつも温かいご指導ご支援をいただきまして、本当に有難うございました。

(2014年3月29日 須賀あゆみ)